

耳石解析による2024年生まれアユのふ化日組成

谷口皆人・尾崎友輔

1. 目的

アユのふ化時期の早晩は、アユのその後の成長および漁獲状況に関係することが知られている。そこで今後の漁況予報の参考とする目的で、ヒウオ生息状況調査で採捕した2024年生まれのアユのふ化日組成図を作成し、ふ化時期の特徴を把握した。

2. 方法

耳石解析に用いたヒウオは、10月5日から12月17日にかけて、およそ2週間に1回の頻度で船木崎から当场にかけての4水域（図1の実線部分）で、ヒウオ生息状況調査と同様の手法で採捕した。曳網水深は各水域8mとし、中央付近の2水域では水深16mでも実施した。採捕したヒウオから耳石を摘出し、耳石解析装置(ARP/W+RI:ラトックシステムエンジニアリング社製)を用いて日輪数(図2)を計数することで523個体のふ化日を求めた。また、耳石解析で得られたふ化日頻度を全採捕尾数で

補正し、ふ化日組成図を作成した。

3. 結果

ヒウオ曳調査では9月5日から11月10日にふ化したヒウオが採捕された。2024年生まれのアユのふ化日のピークは10月上旬となり、とくに10月1日または10月5日前後にふ化した個体が多かった。一方、9月にふ化した個体の割合は全体の14%と少なかった(図3)。



図1 サンプルング水域図

図2 アユ耳石顕微鏡写真

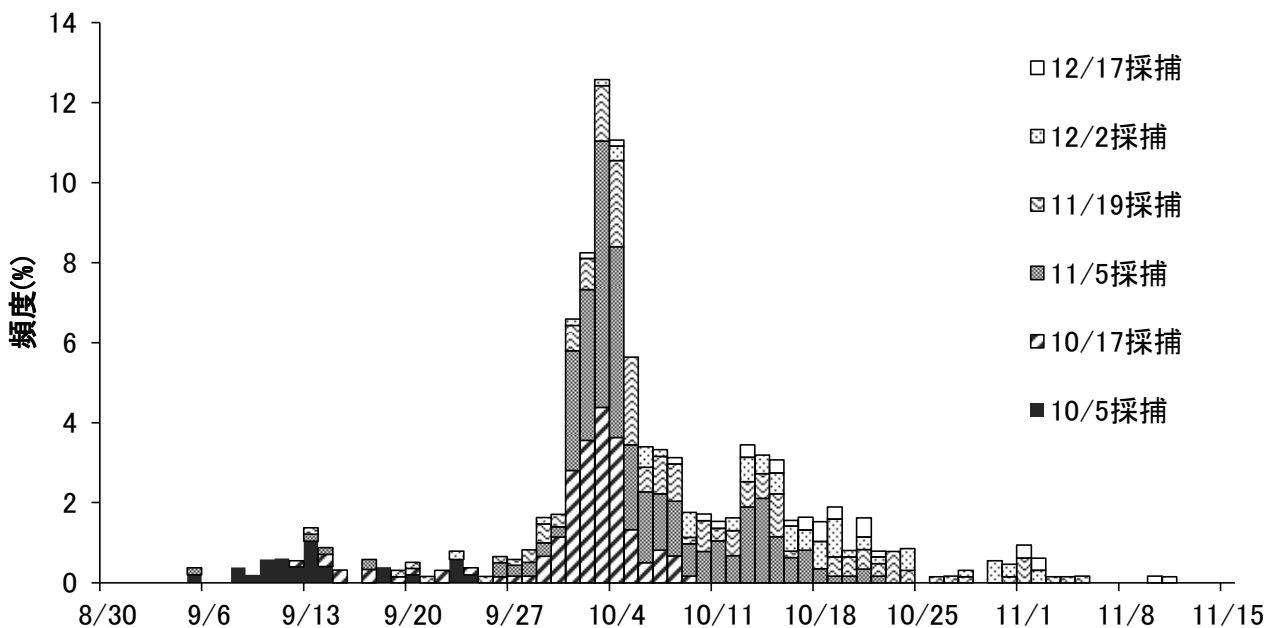


図3 2024年生まれアユのふ化日組成図